

2017年5月17日

要 望 書

高浜原発3・4号機の再稼働を強行する関電に抗議し 即刻中止するよう求めてください

大阪市長 吉村 洋文 様

日頃は大阪市民の安全と環境を守るため、ご尽力いただきありがとうございます。

関西電力は、5月17日に高浜原発4号機の原子炉起動を強行しようとしています。続いて3号機でも、5月13日から燃料装荷を開始しました。福井県知事と高浜町長の下承のみで、再稼働を強行することは、到底許されることではありません。関西電力の筆頭株主でもある大阪市として、関電に抗議し、再稼働を中止するよう直ちに求めてください。

福島原発事故で古里を追われた多くの住民は、事故から7年目のいまでも困難な避難生活を余儀なくされています。福島県内の甲状腺がんは、悪性・その疑いがある子どもは185名（一人は良性）と公表されていましたが、しかし実際には、大人も含めて1082名もの人々が甲状腺がんの手術を受けていたことが明らかになっています。さらに、原発から200km離れた千葉県等でも子どもの甲状腺がん発症が確認されています。

高浜原発から約100kmの大阪市でも、事故になれば取り返しのつかない被害が及びます。兵庫県知事は、100km離れた神戸市に最短2時間でプルームが到達すると議会で答弁しました。原発事故の被害を防ぐには、まずは再稼働をやめることです。再稼働の問題は、大阪市とそこに住む私たちの問題でもあるのです。

高浜原発では、クレーン倒壊事故、水漏れ事故、原子炉自動停止と立て続けに事故が起き、京都府30km圏内の7市町で構成する地域協議会幹事会では、関電の安全管理に厳しい意見が出されています。また、私たちは、7市町自治体をはじめ京都府・滋賀県の自治体に申し入れを行ってきましたが^{※1}、そこでも「しっかりとした安全対策が示されない限り再稼働は認められない」と、多くの自治体から意見を聞いてきました〔別紙資料：申し入れ報告〕。

大阪市も委員である関西広域連合は4月28日に、関電に対して「高浜発電所の安全対策についての申し入れ」を行いました。その内容は「万全の安全対策を講じる」よう求め、「地域の安全に影響を及ぼしかねない事態が続いており」と述べながらも、再稼働を認める内容になっています。当日の委員会では、滋賀県知事から再稼働反対の意見が出されたにも関わらず、そのことにも触れていません。私たちは5月12日に、関西広域連合本部にも同様の申し入れを行いました。しかし、広域連合としては、関電からクレーン倒壊事故の説明さ

※1 4月13日：滋賀県、京都府/ 4月28日：福知山市/ 5月1日：舞鶴市/ 5月8日：南丹市、京丹波町/ 5月9日：綾部市、京田辺市、八幡市/ 5月10日：伊根町/ 5月11日：宮津市（原発なしで暮らしたい宮津の会の申し入れに参加）、愛荘町、日野町

え聞いておらず、「万全の安全対策」を文書で求めながら、具体的に行動する意思はみうけられませんでした。

5月11日には、京都府地域協議会幹事会の第4回会合が綾部市で開かれました。そこで関電が示した「安全対策」は、大地震が起きても安全上重要な機器には破損が生じないことを前提にしたものです。福島原発事故の教訓を省みようともせず、これでは関西住民の安全は守れません。

5月11日の協議会幹事会では、複数の自治体が、住民への説明や住民説明会の開催に関電に求めました。関西広域連合も、4月28日「申入れ」で「原子力発電所の安全対策等に関する住民への積極的かつ丁寧な説明と、なお残る近接自治体等の不安や懸念の払しょくに向け真摯に対応すること」に関電に求めています。

以上より、まずは再稼働を中止し、クレーン事故等に関する「安全対策」を大阪市民に直接説明させるべきです。下記の要望事項を早急に実行してください。

要 望 事 項

1. 関電に抗議し、高浜原発3・4号機の再稼働を中止するよう求めてください。
2. 住民説明会を開き、「安全対策」を直接市民に説明するよう求めてください。
3. とりわけ、5月11日に関電が出した下記の「安全対策」について、大阪市としても内容を確認してください。

5月11日「地域協議会幹事会資料2」「クレーン倒壊事故を踏まえた改善について」関西電力
<http://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/news/documents/290511shiryou2.pdf>

○なお、東日本大震災並みの大地震では、クレーン等が転倒、破損するリスクがある。この場合でも、原子力の安全機能は2つ以上の設備や機能を備えており、クレーン等の転倒、破損によって全ての安全機能が失われることのないよう、クレーン等の配置・使用を配慮している。(上記資料6頁)

これは、大地震でも、地震そのものによっては決して機器が壊れることはないこと、クレーンの倒壊によってしか機器が壊れる可能性はないことを前提にしているように読み取れます。

しかし、東日本震災並みの地震で少なくとも片方の機器が壊れることを前提にすべきです。その場合、どちらの機器が地震で故障するかはあらかじめ分かるはずがないのに、どうして同時故障が起らないようにクレーンの配置を決めることができるのか、関電に説明を求めてください。

2017年5月17日 避難計画を案ずる関西連絡会



(連絡先団体: グリーン・アクション/原発なしで暮らしたい丹波の会/脱原発はりまアクション/原発防災を考える兵庫の会/美浜の会)

この件の連絡先: 美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会(美浜の会) e-mail mihama@jca.apc.org
大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL:06-6367-6580 FAX:06-6367-6581